

# 営農だより

カメムシの  
すみかをなくすため  
除草を徹底  
しましょう



## 6・7月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～

- 中干しの期間は1ヶ月 ● 中干し後から出穂までの約1ヶ月は飽水管理
- 畦畔・農道等は7月上旬までに追加除草

### ■生育概況

5月中下旬は平年に比べ平均気温は高くなりましたが、日照時間はかなり短く推移しました。断続的な降雨の影響から深水管理となり、莖数が少ないほ場がみられます。

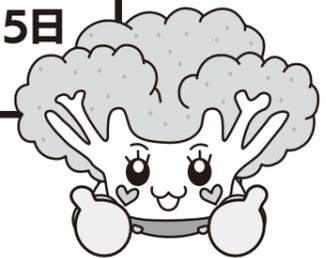
一方で、莖数が多いほ場も見られることから、生育に応じた水管理を実施しましょう。特に、莖数が中干し開始の目安に達しているほ場では中干しを徹底しましょう。

#### 生育調査結果(コシヒカリ)

	6月8日現在	前年度
草丈(cm)	28.0	33.6
莖数(本/株)	11.7	16.1

※市内21箇所の観測田データの平均値

中干し期間は  
ゆめみづほ 6月末  
コシヒカリ 7月5日  
ひやくまん穀 7月5日  
まで実施しましょう!



### 出穂予想(6月8日現在)

	令和3年度	参 考	
		令和2年度	平 年
ゆめみづほ	7月18日～22日	7月16日	7月18日
コシヒカリ	7月28日～8月1日	7月28日	7月28日
ひやくまん穀	8月4日～6日	8月4日	—

※今後の天候次第で変動することがあります。

### 早生の穂肥施用(10a当り)

※基肥一発肥料田で莖数が少ない場合：分施の1回目と2回目の中間の時期に窒素成分で1kg/10a以内で追肥する。

品種名	区 分	分 施		穂肥一発肥料
		1回目	2回目	
ゆめみづほ 出穂予想 7月18～22日	施用時期	6/25～6/29 出穂23日前	7/8～7/12 出穂10日前	6/25～6/29 出穂23日前
	1回目の施用基準	幼穂長:1.5～2mm 葉色:4.0	—	幼穂長:1.5～2mm 葉色:4.0
	一般米	有機入いしかわライト550 (15-5-10) 15～17kg	有機入いしかわライト550 (15-5-10) 15kg	有機入 いしかわ穂肥一発055 (20-5-15) 20～25kg
	加工用米等	化成肥料 14-14-14 (14-14-14) 20kg	化成肥料 14-14-14 (14-14-14) 20kg	

※穂肥施用時の注意事項

- 圃場によって生育の差があるので **幼穂長(1.5～2mm)** を必ず確認してから施用すること。
- 地力の高い圃場や転作後の圃場では施用量をやや少なくすること。

生産履歴記録簿を記帳しましょう！

カメムシの被害粒防止は「畦畔除草」＋「本田の一斉防除」

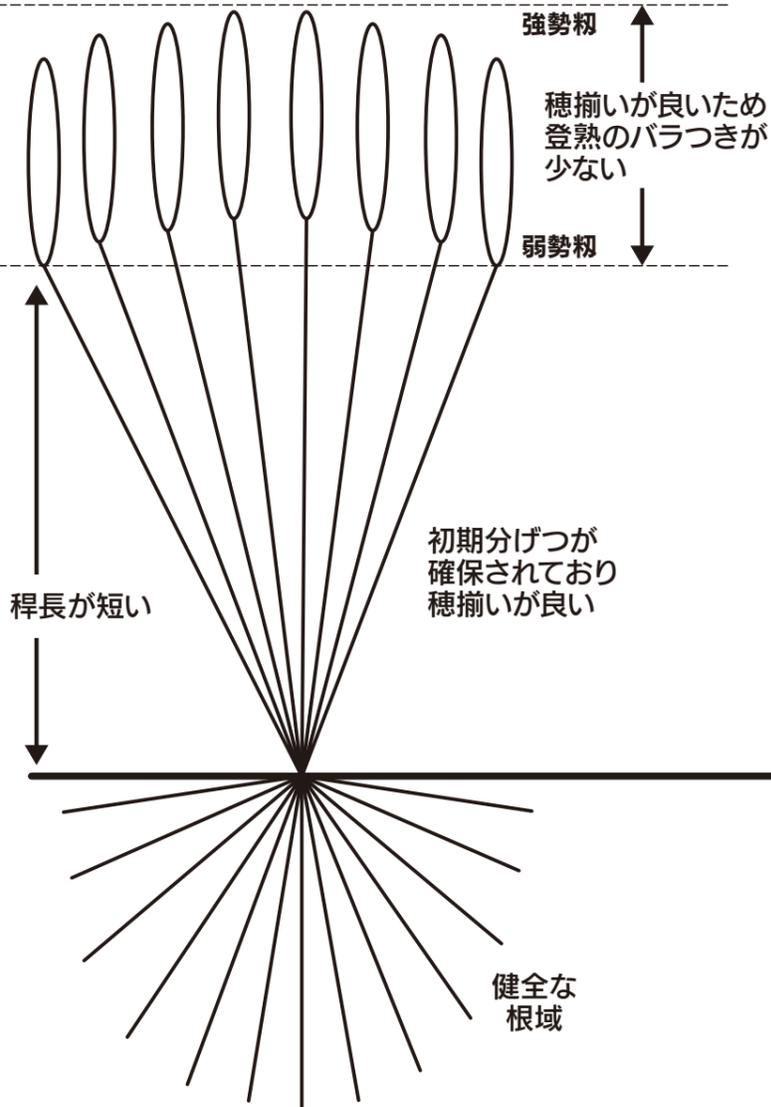
# 中干しの効果・意味

- ◎過剰分げつ防止と、草丈を揃え、出穂を均一にする。
- ◎根を地中深く張らせ、倒伏しにくくさせる。

良い例



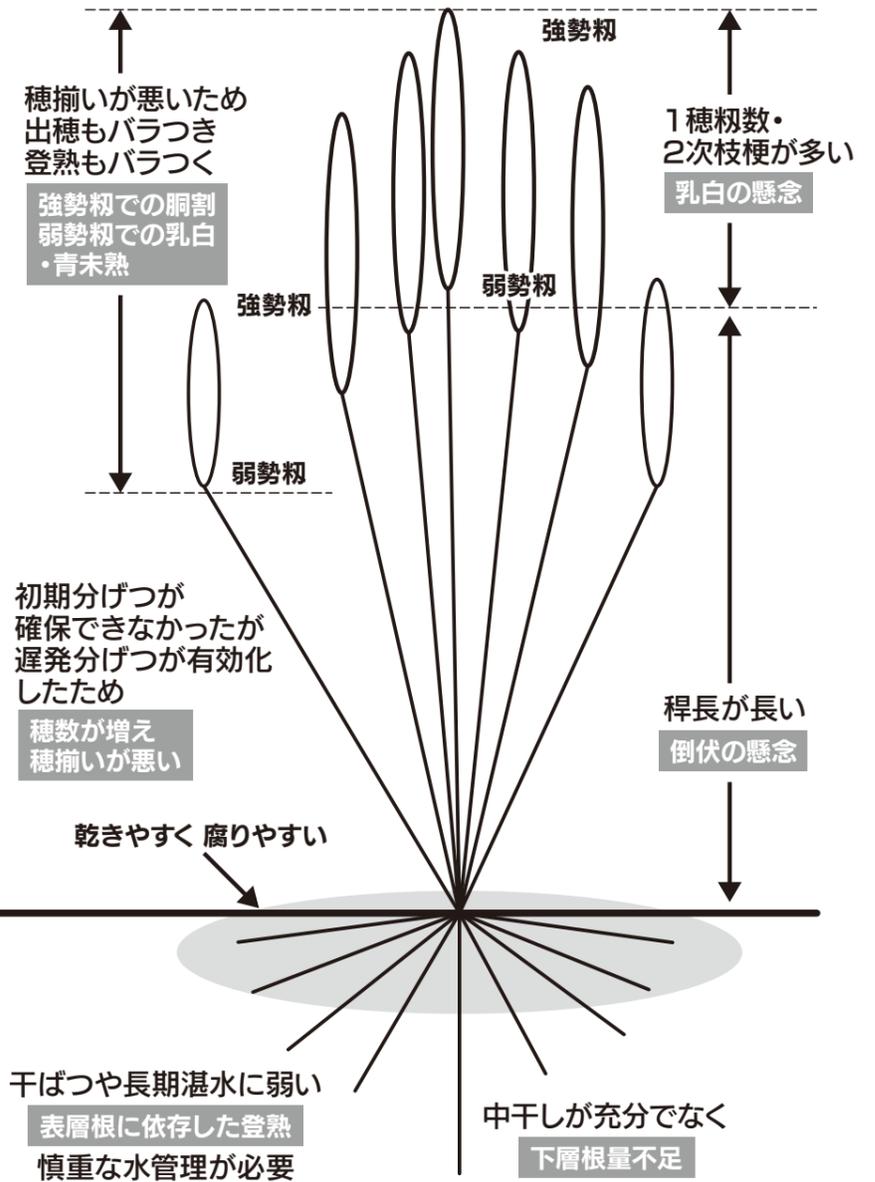
中干しを実施した場合



悪い例



中干しをしない場合



収量・外観品質・食味の三拍子揃ったお米を生産するためには、登熟を向上させることが重要です。登熟を向上させる為には中干しの実施、間断通水の水管理が必要です。  
中干しの終了は幼穂形成期頃で、ゆめみづほで6月末、コシヒカリで7月5日頃、ひやくまん穀で7月10日頃です。

## 中干し後の水管理のポイント ~飽水管理で根を健全に~

### ★幼穂形成期以降の水管理

- 【重要】間断通水を徹底し、根の活力維持を図る。→土が湿った状態を維持!!
- ◎フェーン現象が予想されるときは事前に通水し、土壌に水分を補給しておく。

### ★出穂・開花期の水管理

- 【重要】稲体の水分蒸発量が最も多くなるので通水管理の徹底を!!
- ◎特に穂が出る前の時期は、水田に水がある状態にする。

